

平成 28 年 11 月 22 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）留学終了報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 報告者情報

所属/学年	理工学研究科 化学生命・化学工学専攻修士 2 年	性別	男
卒業/修了 予定年月日	2017 年 3 月 31 日		

2. 留学の概要

留学期間	開始年月日	2016 年 8 月 26 日	終了年月日	2016 年 10 月 29 日
留学のタイトル	留学を通じた英語力・専門技術力の向上および異文化理解			
留学の目的と概要（実践活動部分には、下線を引いて下さい）（700 字程度）				
<p>本留学の目的は、英語力を向上させ、専門的な技術・知識の獲得し、米国の文化を理解することで、自身を将来グローバルに活躍できる人材へと成長させることであつた。さらに、海外での学習や生活を通してグローバルな視点でローカルな課題の解決に取り組む力を身に付けることも目的の 1 つであつた。</p> <p>具体的には、<u>グローバルスタディ</u>、<u>研究インターンシップ</u>を行つた。グローバルスタディにおいては、学習題材にグローバルな問題（食料、環境、エネルギーおよび健康に関する問題など）を扱つたことから、基礎となる英語スキルやオーラルコミュニケーション能力だけでなく、文化や物事に対する考え方の違いなども学ぶことができた。また、研究インターンシップにおいては自身の専門分野である高分子化学や有機-無機ハイブリッド材料と深い関わりのある有機合成を専門とする研究室を訪問し、研究者として社会で活躍するために非常に役立つ技術や知識を獲得することができた。さらに、研究課題に関する議論を英語で行つたことで、実践的なコミュニケーション能力が向上した。また、ホームステイではインド人の教員との共同生活を通じて英語力が向上しただけでなく、自身のものとは異なる文化を学ぶことができたため、非常に有意義であつた。</p> <p>また、週末等の時間を利用して歴史、気候、地域新産業の創出など現地に関する調査を行い、それらが町の活性化にどのように役立てられているのかの調査も行つた。さらに大学と地域の関係についても学ぶことができた。</p> <p>以上のように本留学では、自身がグローバルに活躍できる人材になるために不可欠であり、大学内・国内では学ぶことのできないことを学ぶことができた。</p>				

3. 受入れ機関情報及びスケジュール

(1) 受入れ機関情報

	1ヶ所目の機関	2ヶ所目の機関	3ヶ所目の機関
--	---------	---------	---------

国・地域	米国		
都市名	ノースダコタ州ファーゴ市		
機関名 (英語)	North Dakota State University		
機関名 (日本語)	ノースダコタ州立大学		
受入れ 機関 URL	https://www.ndsu.edu/		

(2) 留学期間中のスケジュール 留学月数 (3) ヶ月 / 授業料申請 有・無

年 月	留学先機関	国・地域	主な活動
2016年 8/26-9/13	ノースダコタ州立大学	米国	グローバルスタディ(実用的かつ基礎となる英語スキルの習得や、英語によるオーラルコミュニケーション能力の向上をはかった。)
2016年 8/29-10/29	ノースダコタ州立大学 Sibi Group	米国	研究インターンシップ(現地学生と共に研究課題に取り組んだ。課題解決を通じて実践的なコミュニケーション能力を養った。)
2016年 9/14-10/29	ノースダコタ州立大学	米国	ホームステイ(インド人の教員との共同生活を通じて英語でのコミュニケーション能力を養った。)

(3) 参加したプログラム 有・無 (複数選択可)

本学の協定校交換留学	GOES2016 ノースダコタ研修	本学の協定校交換留学以外のプログラム	名称記入
本学以外の機関による留学プログラム	名称記入		

4. 留学の成果及びその測定方法 (300 字程度)

成果発表(論文、作品等)		単位取得	<input type="radio"/>	外国語能力	<input type="radio"/>	その他	<input checked="" type="radio"/>
<p>帰国後、TOEIC のスピーキング&ライティングテストおよびリスニング&リーディングテストを受けた。テストの結果はまだ出ていないが、留学前よりも解ける問題が多かったように感じた。また、スピーキング&ライティングテストは初受験であったが、思っていた以上にスムーズに回答することができた。</p> <p>さらに、帰国後自身の専門分野の国際会議において英語で研究発表を行い、優秀ポスター賞を獲得することができた。これは、研究内容はもちろんのこと、英語での発表能力を評価された結果であると考えている。</p> <p>また、本留学は講義の一環であり、学内での講義と同様に評価が行われ、単位が取得できることになっている。そのため、この評価も留学の成果の測定方法になると考えられる。</p>							

※当てはまる項目に○を付し、具体的に説明して下さい (複数回答可)

5. 上記 4.も含め、留学の目的がどのように達成できたか、留学で得たことは何か記述してください。

(500 字程度)

グローバルスタディや研究室での生活を通して英語力、特にスピーキング力は飛躍的に向上したと感じている。帰国後の国際学会において、鹿児島を観光した海外の学生の通訳を務めることもでき、英語力の向上を実感できた。

また、米国には様々な宗教や文化を持つ人々が暮らしていたため、米国だけでなく様々な国の文化に触れることができた。私は来年春からグローバルな企業で働くため、異なる文化を持つ人々との交流の経験は、今後の会社での生活において役立つと思う。

研究インターンシップにおいては普段の研究で用いているものとは異なる技術を学ぶことができ、今後の研究の幅が広がったと思う。特に、研究室の仲間との議論において様々なアイデアを獲得することができ、非常に有意義な時間であった。

今回の留学を通して、自身の英語力と化学の知識・技術が足りない部分を知ることができた。一方で、自身が学んできたことが通用する部分もたくさんあり、その点については自身を得ることができた。以上の結果より、これまでの英語・化学に関する学習方法は継続して行き、足りない部分を補足していくことで、グローバルに活躍できる研究者として成長していけると感じている。

6. 留学後に行う鹿児島地域を活性化する活動について述べてください。(500字程度)

今回の留学を通して得られた経験や知識を元にして得られた肝付町の地域活性化に関するアイデアを、ポスターおよび口頭で発表する予定である。

肝付町は全国に2箇所しかないロケット発射場のうちの1つ、豊かな自然、地元の美味しい料理、そして設備の整った宿泊施設など観光地としての魅力を十分に持った町であるため、いかに人を集めるかが重要な課題であると考えられる。

そこで、具体的なアイデアとしては、鹿児島大学と肝付町の連携を深めていくことを提案する予定である。ノースダコタ州立大学の学生は地域の高齢者と関わる機会が多く、定期的に一緒に食事をしたり、冬になると雪かきの手伝いを行ったりしているとのことだった。鹿児島大学内でもボランティア活動に興味を持っている学生は少なく、ある程度の人数の確保は望めるのではないかと考えている。また、肝付町の自然、文化および地域活性化の政策などについて学ぶ集中講義の実施を提案したいと考えている。このようなボランティア活動や講義を通じて、まずは大学生を肝付町に呼び、肝付町の魅力を知ってもらえれば、肝付町の魅力を大学内、県内、そして全国へ向けて発信する足掛かりとなるのではないかと考えている。

7. 留学を今後の自分の生き方にどのように活かすか、留学成果を活用して将来鹿児島地域に貢献できることは何か記述して下さい。(500字程度)

私は大学院での研究生生活を通して、難しそうなのにチャレンジすることが自身の成長には必要不可欠であることを学んだ。今回の留学ではこのことを改めて実感することができた。留学に対しては自身の英語力と、海外で生活することへの不安があったが、今後研究者として生きていくうえで英語を用いることと海外での生活は避けて通れないことは理解していたため、思い切って参加したが、この判断は正しかった。私は今回の留学を通して、英語と化学に関してこれまでに自身が努力してきたことが通用したことに対して大きな自信を得ることができた。また、海外での生活は思っていたほど大変なものではなく、自身が異なる環境にも柔軟に適応できることがわかった。一方で、自身のまだ努力が足りていない部分もはっきりと知ることができ、今後の学習に役立てることができそうだ。

今回の留学で得られた技術や知識は私が所属する研究室の研究とも大きく関わるものであり、それらを自身の研究課題に活かすことはもちろんのこと、後輩に伝えることで今後の研究の幅が広がると考えられる。すなわち、私は留学成果である新たな知識と技術によって、研究室と鹿児島大学の研究成果に貢献したいと考えている。

平成 28 年 12 月 19 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）
留学後地域活性化報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 報告者情報

所属/学年	理工学研究科 化学生命・化学工学専攻修士 2 年	性別	男
卒業/修了 予定年月日	2017 年 3 月 31 日		

5. 留学後の鹿児島地域を活性化する活動の概要を、留学の成果との関係がわかるように記述してください。（700 字程度）

【活動のタイトル】留学を通して得た知見を活かした肝付町の地域活性化策の提案

【活動の期間】平成 28 年 11 月 25 日～平成 28 年 12 月 2 日

【活動の概要】留学を通して得た知見をふまえた肝付町の地域活性化策を考え、その内容に関するポスター発表を肝付町長および肝付町役場の方々の前で行い、さらに内容に関して議論を行った。

留学を通して得た知見をふまえた肝付町の地域活性化策を考え、その内容に関するポスター発表を肝付町長および肝付町役場の方々の前で行った。

具体的には、①鹿児島大学の集中講義での肝付町の利用、②インターネットを用いた特産品の販売戦略と雇用の拡大、③川上小・中学校や空き家の活用法、④アニメを用いた地域活性化の実例などを提案・報告した。

①については、留学先であるノースダコタ州立大学の学生がボランティア活動などを通して地域の高齢者と活発に交流を行っていたことからヒントを得た。集中講義での肝付町の利用は、大学生に肝付町の魅力を伝える絶好の機会であり、地域活性化の足掛かりになると考えている。②は町内全域で光ネットワークを用いることができ、多くの特産品を有する肝付町の特徴を元に考えた。インターネットを用いて特産品を販売・配達するサービスは、町外のみならず、高齢者が多い肝付町内での需要も見込めると考えられる。さらに、サービスの実施に伴う雇用の拡大と人口の増加が期待できる。③では、留学中に見学した Bonanzaville というファーフの歴史資料館を参考に、肝付町や鹿児島県の歴史や文化について学べる観光施設としての利用を提案した。町中に点在する空き家をこのような施設として利用することで、移動中に肝付町の町並みを楽しむことができる。④は近年アニメを用いた地域活性化に成功している実例が数件存在していたことと、米国においても日本のアニメは非常に人気が高かったことから、アニメを用いた地域活性化策では外国人観光客の獲得も期待できると考え、紹介した。肝付町は既に宇宙兄弟や銀河鉄道 999 などのアニメとゆかりがあり、アニメを用いた地域活性化策が成功する可能性は大いにある

と考えている。

さらに、以上の内容について肝付町長や役場職員の方々と議論を行った。

6. 鹿児島地域を活性化する活動の成果と今後の課題と展望について述べてください。(700字程度)

上記の地域活性化に関するアイデアに対して議論を行った。特に、アニメを用いた地域活性化の実例や空き家の利用に関しては高い関心を寄せていただいたように思う。今回は自身のものも含め、数多くのアイデアが提案されたが、多くのアイデアに興味を持っていただき、それぞれに関して議論を行うことができた。さらに、肝付町の住民とそうではない我々、社会人と学生、年齢など、様々な違いが意見の違いにも表れているように感じ、自身では気づかなかった点を指摘してくださったことは有意義であった。このことから、地域活性化においては様々な視点を持つ人々の参加が必要であると考えられる。

一方で、今回の活動ではアイデアの提案・議論に留まったが、地域活性化においては一時的な協力・支援ではなく、長期的な協力関係の構築が重要であると感じた。そうすることで、肝付町への理解と共に自身のアイデアが磨かれていき、よりよいアイデアへと変化していくと思うからである。

理工学研究科と肝付町は今後協定を結ぶ予定であるとのことで、今後はより強固な協力関係が構築されていくと考えられる。例えば、錦江町と鹿児島純心女子短期大学のように、密接な関係を築くことができれば、地域活性化は促進されると思う。初期段階でこの計画に携わったものとして、卒業までの4か月間、さらに卒業後も協力できることがあれば参加したいと思う。また、個人的な話ではあるが、私は豊かな自然を有する大隅地区がもともと好きで、休日はたびたび足を延ばしていた。今後も肝付町を含めた大隅地区を訪れ、その魅力を周囲の人々に発信し、少しでも地域活性化に貢献したいと考えている。